

「日本海溝・千島海溝沿いにおける異常な現象の評価基準検討委員会」 の設置について

1 趣旨

中央防災会議防災対策実行会議の下に設置された「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ」（以下 WG）では、日本海溝・千島海溝で想定すべき最大クラスの地震・津波に対する被害想定や防災対策の検討を進めているが、防災対応に資する情報発信の必要性等を検討するために、南海トラフと同様の仕組みとして、M8 程度の地震が発生する「半割れケース」、M7 程度の地震が発生する「一部割れケース」、異常な地殻変動が観測される「ゆっくりすべりケース」に相当する現象の評価基準を明確にすることが必要である。

このことに鑑み、科学的観点から各ケースに該当する現象の評価基準を検討する委員会をWGの下に設置することとした。

2 主な検討課題

- ・「半割れケース」と評価する現象とその基準
 - ・「一部割れケース」と評価する現象とその基準
 - ・「ゆっくりすべりケース」と評価する現象とその基準
- 等

3 検討体制

地震学等の専門家で構成（委員名簿を参照）
事務局：内閣府政策統括官（防災担当）、気象庁

4 検討スケジュール

8月23日（月） 第1回検討委員会
年内 報告書とりまとめ

中央防災会議 防災対策実行会議
日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ
日本海溝・千島海溝沿いにおける異常な現象の評価基準検討委員会

委員名簿

座長	山岡 耕春	名古屋大学大学院環境学研究科附属 地震火山研究センター 教授
委員	井出 哲	東京大学大学院理学系研究科 教授
	大園 真子	北海道大学大学院理学研究院附属 地震火山研究観測センター 准教授
	小原 一成	東京大学地震研究所 教授
	汐見 勝彦	防災科学技術研究所地震津波防災研究部門 副部門長
	杉岡 裕子	神戸大学海洋底探査センター 教授
	谷岡 勇市郎	北海道大学大学院理学研究院附属 地震火山研究観測センター 教授
	津村 紀子	千葉大学大学院理学研究院 准教授
	畑中 雄樹	国土地理院地理地殻活動研究センター長
	堀 高峰	海洋研究開発機構 海域地震火山部門 地震津波予測研究開発センター長
	松澤 暢	東北大学大学院理学研究科附属 地震噴火予知研究観測センター 教授
	三宅 弘恵	東京大学地震研究所 准教授
	宮澤 理稔	京都大学防災研究所 准教授

計 13 名（敬称略）

事務局 内閣府政策統括官（防災担当）、気象庁